

人権一口講座



「生きてるだけで丸儲」

母が亡くなった。83歳。

3年間闘病し、自宅、施設、病院を行ったり来たり。

介護は大変だった。

でも、すっかりとした意志で「やっぱり家が一番いい」と言う母をできる限り自宅で過ごさせてやりたかった。

孫（私の長男）の結婚式が近づくにつれ、母の容態も悪化し、晴れ姿を見せてやりたかったけど、叶わなかった。

結婚式の前日、孫を見て、最後の力を振り絞るように、「結婚おめでとう」。これが最後の言葉。

遠方の親戚も、長男の結婚式で帰省しており、式の数日後、自宅で家族みんなに見送られながら、静かにゆっくりと息を引き取った。

88歳になる父が、母が施設や病院にいる間、寂しさを紛らわすために買ったカラオケセットで、

母が好きだった「北国の春」をみんなで熱唱した。

最後の部分を♪おおかあさくん♪と替えて歌うと、母が、懐かしい場所へ帰って行くのを見送るようで、みんな大号泣。

私も20数年後に母と同じ年齢になる。

子は親の背中を見て育つというが、

私の晩年は息子がしっかり面倒を見てくれることを期待しつつ、残されたものに迷惑をかけないような人生の終焉を迎えたい。

人生は一度きり。

あっという間に過ぎていく。

だからこそ、一人ひとりの命と時間が尊重される社会であってほしい。

その尊い命を大切にし、自分だけでなく周囲の人の生き方も尊重しながら、楽しく、穏やかに、差別や偏見、争いごとのない世の中で平和な毎日を重ねていきたい。

生きてるだけで丸儲けなのだから。

